

北足立北部退職校長会 会員だより

第 41 号

発行責任者 大 菅 建 男
印刷所 吉 野 印 刷

どうせやるなら楽しく

会 長 大 菅 建 男

平成六年度に新任校長として赴任した学校のPTA会長Kさんは、明るく楽しく前向きで「どうせやるなら楽しく」が合言葉の人でした。PTAの合間に、学校行事に、地域の活動に骨身を惜しまず献身的に尽くす惚れ惚れする人でした。

この「どうせやるなら楽しく」で思いつくのが、『論語』の「之を知る者は、之を好む者に如かず。之を楽しむ者に如かず」の言葉です。

役割を果たすためには、責任も重荷も十二分にあるわけですが、この楽しむという姿勢で臨むと行動が明確化し、具体化し、展望が開けてくるのだと思います。

このKさんも私が現職の最後の年の平成十七年秋に病を得て逝去されました。このKさんとは親交を深め、忘れ得ない人となったわけですが、この「どうせやるなら楽しく」と共に忘れられないもう一つの言葉が「校長さん、

『北風と太陽』だよ』です。

令和元年五月の北足立北部支部総会で、石原完会長の後任に、私が選任されました。もとより若輩で非力な私ですが、会員の皆様、ことに役員の皆様との協力を得て、私も「どうせやるなら楽しく」をモットーに微力ながらがんばっていきたいと思います。

北足立北部退職校長会の事業を推進するために「教育推進委員会」「懇親旅行委員会」「会報委員会」があるわけですが、委員長さんを中心に各委員さんがよく協力して事業の具現化のために真剣に取り組んでいます。役員全体もよくがんばっています。頭の下がる思いです。

いろいろな事情で、退職校長会の行事に参加できる方が限られるとか、役員の成り手が少ないとかが課題ですが一歩進んで積極的に参加してみたらどうでしょうか。きつと楽しく学ぶことの多い会であることがわかります。

十人が十色を持つて

副会長 黒 瀬 任 通

令和元年は、早くも終ろうとしています。私も退職校長会の役員として係わって五年目になりました。今年度からは、北足立北部退職校長会の副会長役を仰せつかりました。私にとってはとても重責ではありますが、誠心誠意取り組んでまいります。

さて話は変わりますが、現役の時、公的集団として何事にも一丸となつて仕事を進めていきます。自分特有の考えややり方を持つていても、それを自由に出して取り組むことはしません。

しかし退職すると、その公的集団からは外れ、一人一人が、自分特有の考えややり方を、その人の特徴として、「自分の色」として出して生きていくことができます。もう、十人が十色を日々出していいのです。逆に言うと、

「自分なりの色を持つて、生きて行かなければならない」と言えます。退職校長会の会員は、会に所属していても、会から縛られることはありません。

十人十色を持った皆さんが、自分の色を大切に持ちつつ、会の行事にご参加くださり、楽しく活用して、ご自身の色がさらに輝くよう磨いていただきたく思います。

これからも、皆さんに楽しさを運べる会にしてまいりたいと存じます。

正しいことを言うときには

副会長 小古瀬 健 治

詩人の吉野弘氏が、新婚生活に臨む新郎新婦への応援と心構えを書いた

「二人が睦まじくいるために・・・」で始まる「祝婚歌」の中に

「正しいことを言うときには少しひかえめにするほうがいい

正しいことを言うときには相手を傷つけやすいものだと

気付いているほうがいい」という言葉が出てきます。

一般的に私達は、自分が正しいと思いい、自分の考えを相手に押しつけてしまいがちです。しかし、自分の正しさだけを主張すると相手を傷つけることがあるということを気付かせてくれた言葉です。

正しいことを伝える難しさは、職場の時もそうでしたが、退職した後の生活においても同様です。内容が間違っていないければ相手は受けざるを得ないのですが、感情として受け入れ難い面があり、伝え方に一考を要します。

正しいことを伝えるときには、相手の立場や気持ちを尊重する気持ちを持つて接する必要があります。

「正しいことを言うときには少しひかえめにするほうがいい」という「祝婚歌」の言葉を改めて思い出しています。

北足立北部だより

井 関 由美夫

◇北足立北部定期総会

五月十一日(土)鴻巣市文化センター(クレアこうのす)大会議室にて午後三時から開催された。

来賓として鴻巣市教育委員会教育長武藤宣夫様、埼玉県退職校長会長石田孝作様に臨席を賜り祝辞をいただいた。石原完会長より、十七名の新会員が紹介された。

議長に青木清氏を選出し、議事が滞りなく進行された。石原完会長以下任期満了に伴う新役員には、

○会 長 大菅建男

○副会長 黒瀬任通・小古瀬健治

以下各役員が選出された。

その後、令和元年度事業計画案・予算案等が審議され可決された。

引き続き、同室にて懇親会を行い、会員の親睦を深めた。

○正・副会長以下の役員

幹事 (長) 井関由美夫・(会計)

井原清子・(庶務) 福田安孝

(委員長) 佐藤豊明・平賀健

郎・青木慶一(上尾班幹事

長) 小川久雄(鴻巣班幹事

長) 村尾章平

監事 清水保義・小田嶋美和子

理事 各委員会に表記

顧問 石原 完

○第一回正副会長・幹事会
六月十五日(土)上尾公民館

議題一 本年度事業計画の具体化
二 予算執行について
三 委員会の活動内容と分担について

○第二回正副会長・幹事会
九月七日(土)上尾公民館

議題一 各退職校長会からの報告
二 委員会の進捗状況について

○教育推進委員会

(長) 佐藤豊明・河合悦子・町田哲夫・菅田泉・齊藤一彦・田所章

現職・退職校長教育推進協議会

(十一月一日上尾市文化センター)に向けての準備

○懇親旅行委員会

(長) 平賀健郎・山口秀之助・中野住衣・長谷川有司・福島美智代・高野和夫・堀守雄

十月六日(日)〜七日(月)山梨県方面への旅行が二十六名の参加を得て有意義に実施。

○会報委員会

(長) 青木慶一・前島百合子・永江幸子・青木一弥・坂本孝子・須藤一幸

会員だより第四十一号発行に向けて企画・編集等

○埼玉県退職校長会総会

六月七日(ウエスタ川越)会員二十二人出席

上尾班だより

小川 久雄

○定期総会

四月十三日(土)桶川市の五月寿司で開催。桶川市長小野克典様、同教育長岩田泉様、上尾市教育長池野和己様、上尾・桶川・伊奈の各校長会長様のご臨席のもと、会員三十名の参加で実施した。引き続き懇親会を行った。

新会員は八名で、会員総数百十六名である。(十月一日現在)

○今年度の事業

①会員だより「あおい」第二十六号を七月に発行

②会報第二十七号を令和二年三月に発行予定

③班内退職校長(十二名)と上尾市現職校長(十七名)との懇話会を七月三十日富士見小学校を会場に開催した。現職校長小学校一名、中学校一名の発表があり、それに基づき協議した。

④班内各小中学校長に、通学区域内に在住する退職校長会員の名簿を配布。

⑤会員研修は「太平記の英雄、新田義貞ゆかりの地を巡る」をテーマに十一月十日(日)に実施した。義貞は、鎌倉に入り北条氏を滅ぼす。足利尊氏と対立。尊氏が建武政権に反旗を翻す。最後は越前藤島で戦死する。

⑥同好会では、彩光会(写真)とウォーキング会が毎月充実して実施中。

鴻巣班だより

村尾 章平

○定期総会

四月十三日(土)鴻巣市文化センターで開催。鴻巣市教育長武藤宣夫様を来賓としてお迎えし、会員三十七名の参加で実施。議長には梅山健司氏が選出され、前年度の事業・決算・監査報告や新年度の役員案件・事業計画・予算案も原案通り承認されました。

懇親会は会場を「とき」に移し三十三名が参加し、会員の懇親と交流を深めました。新会員は九名で、会員総数は百三十一名です。

○今年度の事業

①第一回役員会

六月十二日(水)北本市コミュニティセンターにて開催。県及び北部の動向が報告されました。班研修会の内容等が本年度担当の北本地区から提案され協議しました。

②研修会

九月十一日(水)北本市文化センターにて二十八名の参加で実施。

岡田勝雄先生の講演で「参勤交代・中山道鴻巣宿と助郷制度を重点に」をテーマに立派な資料を作成して頂き情熱的なお話を伺いました。残暑の厳しい一日でしたが、当時の農民のくらしの一端を知ることが出来た充実した研修会でした。その後、懇親会は北本の徳樹庵で開催しました。